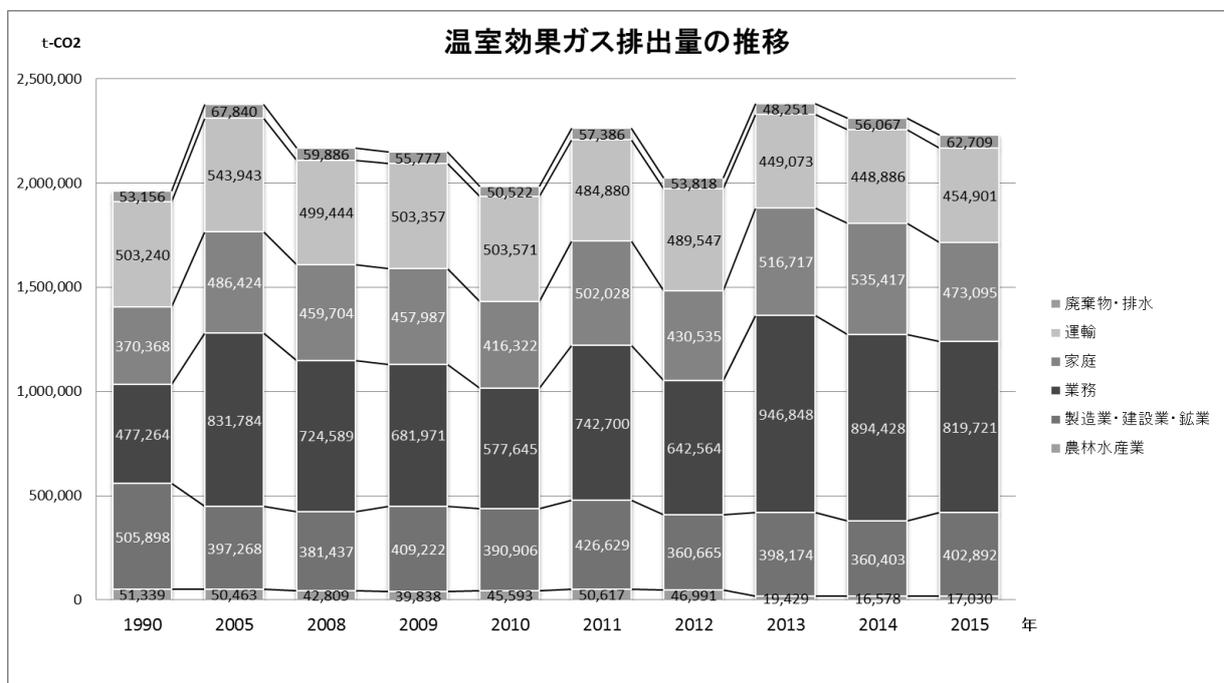


## 長野市の温室効果ガス排出量について 2015 (H27) 年度版

## 1 温室効果ガス排出量の現状

- ・ 2015 (H27) 年度の長野市の温室効果ガス排出量(CO<sub>2</sub>換算)は、推計223万348トンで、前年度と比較して3.5%、基準年度の2005 (H17) 年度との比較でも6.2%減少しました。
- ・ 前年度と比べて排出量が減少したのは、電力使用量が減少したこと、電力の排出係数\*が少し下降したことによると考えられます。【表 1】
- ・ 排出係数の変動による影響を受けないように、係数を2005 (H17) 年度の数値に固定して計算しても、2015 (H27) 年度の排出量は前年度比で約2.3%の減少、2005 (H17) 年度比では約9.1%の減少となっています。【表 2】

\*電力の排出係数：電力 1 kWh 当たりどれだけのCO<sub>2</sub>を排出しているかを示す数値



【表 1 排出係数変動】

単位：t-CO<sub>2</sub>

1990年	2005年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1,961,265	2,377,722	2,425,587	2,167,869	2,148,152	1,984,559	2,264,240	2,024,120	2,378,491	2,311,778	2,230,348
(0.464)	(0.452)	(0.470)	(0.424)	(0.417)	(0.341)	(0.469)	(0.373)	(0.509)	(0.494)	(0.482)

( ) 内は電力の排出係数

【表 2 排出係数固定】

単位：t-CO<sub>2</sub>

1990年	2005年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1,942,383	2,377,722	2,379,249	2,235,595	2,231,239	2,264,079	2,222,660	2,215,977	2,241,169	2,213,648	2,162,448

- ・ 基準年 (2005年) と比べ、電力の排出係数は高めに推移する見込みであり、温室効果ガス削減のための更なる取組が必要です。
- ・ なお、2016 (H28) 年度からは、電力小売全面自由化に伴い電力に係わる情報収集や排出係数の取扱いなど、温室効果ガス排出量の現状をどのように把握するかが課題となります。

## 2 部門別排出量

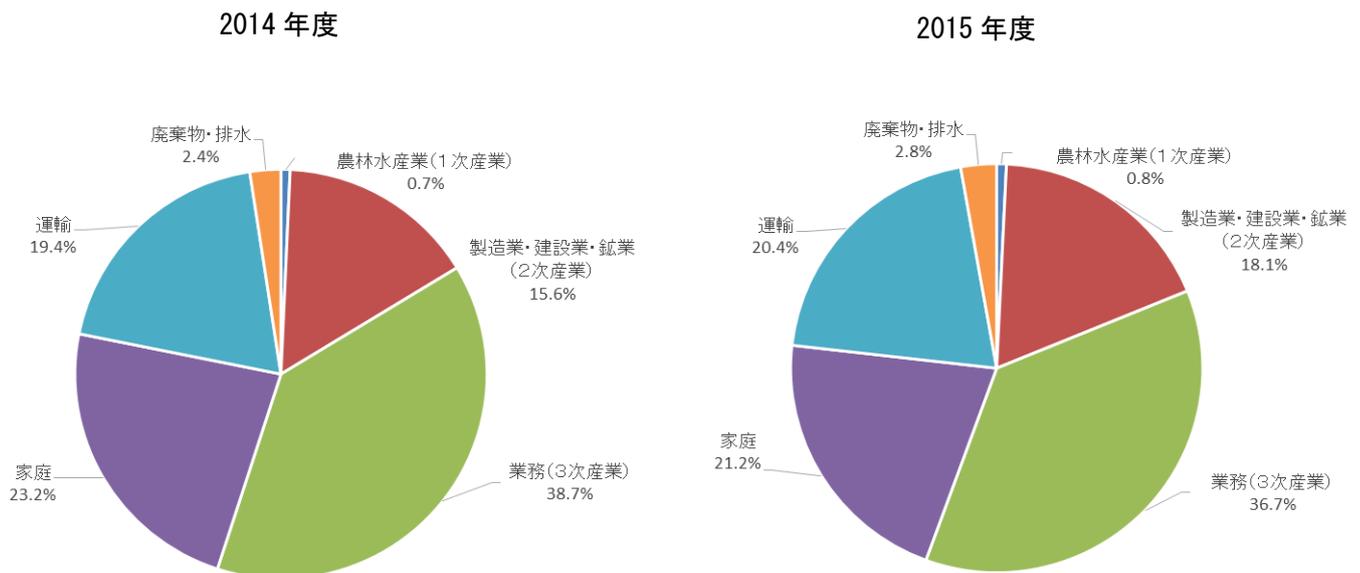
- ・全体に占める各部門の排出量の割合は、業務部門(サービス業・店舗・病院など)が約36.7%と最も多く、続いて家庭部門(21.2%)、運輸部門(20.4%)となっています。
- ・電力の排出係数が少し下降したことや、電気・ガスなどのエネルギー使用量が減少したことなどで、前年度よりも排出量の総量は減少しています。
- ・製造業等の第2次産業は前年度に比べ増加していますが、経済成長率(長野市)が前年度に比べ5.5%増加しており、産業別で見るともっとも伸びているのが第2次産業となります。
- ・電力の排出係数が改善され、前年度に比べて業務及び家庭部門では排出量が減少しています。
- ・廃棄物・排水部門からの排出量が増加していますが、一般廃棄物に含まれるプラスチックの割合が上がったためです。

▽部門別排出量表 (単位: t-CO<sub>2</sub>)

部門(大分類)	基準年 2005年度	2014年度	2015年度	前年度比 %	基準年度比 %
農林水産業(1次産業)	50,463	16,578	17,030	2.73	-66.25
製造業・建設業・鉱業(2次産業)	397,268	360,403	402,892	11.79	1.42
業務(3次産業)	831,784	894,428	819,721	-8.35	-1.45
家庭	486,424	535,417	473,095	-11.64	-2.74
運輸	543,943	448,886	454,901	1.34	-16.37
廃棄物・排水	67,840	56,067	62,709	11.85	-7.56
合計	2,377,722	2,311,778	2,230,348	-3.52	-6.20

※端数処理により、合計値が合わない場合があります

▽全体に占める各部門の割合



### 3 家庭からの排出量と内訳

- ・家庭部門に、自家用車の使用と家庭のごみ処理に伴う排出量を加え、世帯当たりの排出量として算出すると、2015(H27)年度の世帯当たりの平均排出量は推計4.35トンとなりました。
- ・前年度の4.79トンから0.44トン減少しています。廃棄物を除き各部門では減少しており、特に電力使用が減少しています。
- ・一世帯当たりで排出するCO<sub>2</sub>の構成割合をみると、電力が43.6%と最も多く、続いて自動車、灯油、ガス、廃棄物となっています。

#### ▽一世帯当たりの年間平均排出量の内訳

部門 分類	分野別	2014年度			2015年度		
		年間消費量換算	t-CO <sub>2</sub>	割合	年間消費量換算	t-CO <sub>2</sub>	割合
家庭	電力	約 4,438kwh	約 2.19	45.2%	約 3,937kwh	約 1.90	43.6%
	灯油	約 297 ℓ	約 0.74	14.3%	約 257 ℓ	約 0.64	14.7%
	ガス	約 231 m <sup>3</sup>	約 0.50	12.7%	約 220 m <sup>3</sup>	約 0.47	10.9%
運輸	自動車	約 507 ℓ	約 1.18	24.3%	約 476 ℓ	約 1.11	25.4%
廃棄物	廃棄物		約 0.18	3.5%		約 0.23	5.4%
計			4.79			4.35	

※自動車の年間消費量はガソリン換算

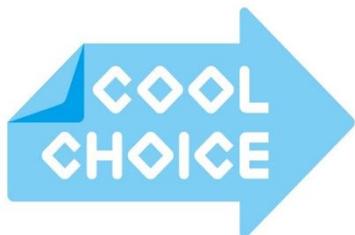
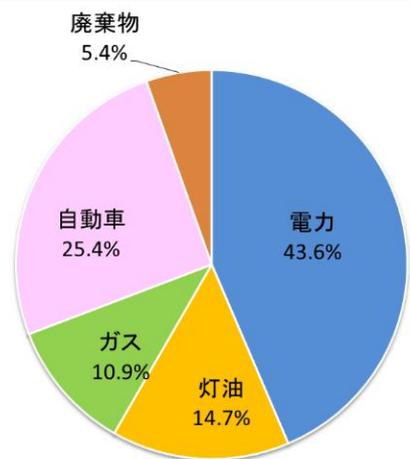
※世帯数 157,095世帯 2015(H27). 4.1住民基本台帳から

※参考：世帯当たり平均人員2.5人（2015(H27)年国勢調査から）

### 長野市一世帯の年間平均CO<sub>2</sub>排出量

- ◆2015(H27)年度の平均排出量は4.35t-CO<sub>2</sub>  
(2014(H26)年度は4.79t-CO<sub>2</sub>)

なお、家庭からの排出量を一人当たりで見ると  
2015(H27)年度の平均排出量は1.82t-CO<sub>2</sub>  
(2014(H26)年度は1.98t-CO<sub>2</sub>) となります。



未来のために、いま選ぼう。

長野市はCOOL CHOICEに賛同し、地球温暖化対策を強化することを宣言しました。

#### ご存知ですか？ クールチョイス COOL CHOICE

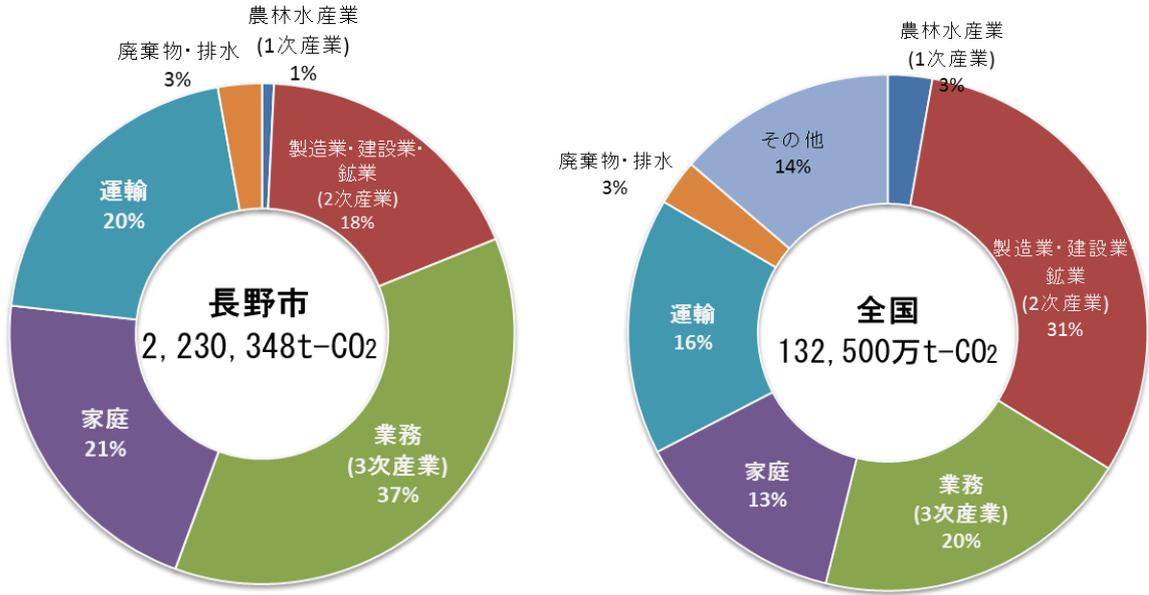
「COOL CHOICE」(=賢い選択)とは、省エネ・CO<sub>2</sub>排出量が少ない(低炭素な)「製品」「サービス」「行動」などを積極的に選択する取組のことです。

- 例えば
- ・省エネ性能が高い家電製品を選ぶ
  - ・公共交通機関を利用する
  - ・買い物時はエコバッグを使用する など

みなさんも、家庭や職場のあらゆる場面で、低炭素な選択を実行していきましょう。

【参考】長野市と全国の温室効果ガス排出量の比較

- 下の円グラフから、長野市は全国と比較して、製造業・建設業・鉱業部門の割合が低く、業務部門、家庭部門の割合が高いことがわかります。



△長野市と全国の温室効果ガス排出量と部門別割合 (2015 (H27) 年度)

▽一人当たりの年間排出量の比較

長野市: 5.91t-CO<sub>2</sub>/人      国: 10.41t-CO<sub>2</sub>/人

長野市外から供給される工業製品等の生産に伴う排出量は、製造された地域(市外)の排出量

- 前年度に比べ長野市の一世帯当たりの排出量は減少し、一人当たりの排出量は全国と比べても低い結果となりましたが、産業構造の違いなどにより排出量は異なります。
- 長野市域の状況などをさらに分析し、一層の排出削減に取り組む必要があります。
- 本市においては、再生可能エネルギーの有効活用や省エネルギーの推進など、継続的に啓発活動を行い、特に排出割合の高い業務部門、家庭部門に対して、より効果的な施策を検討し排出削減の対策を講じていくことが重要と考えます。

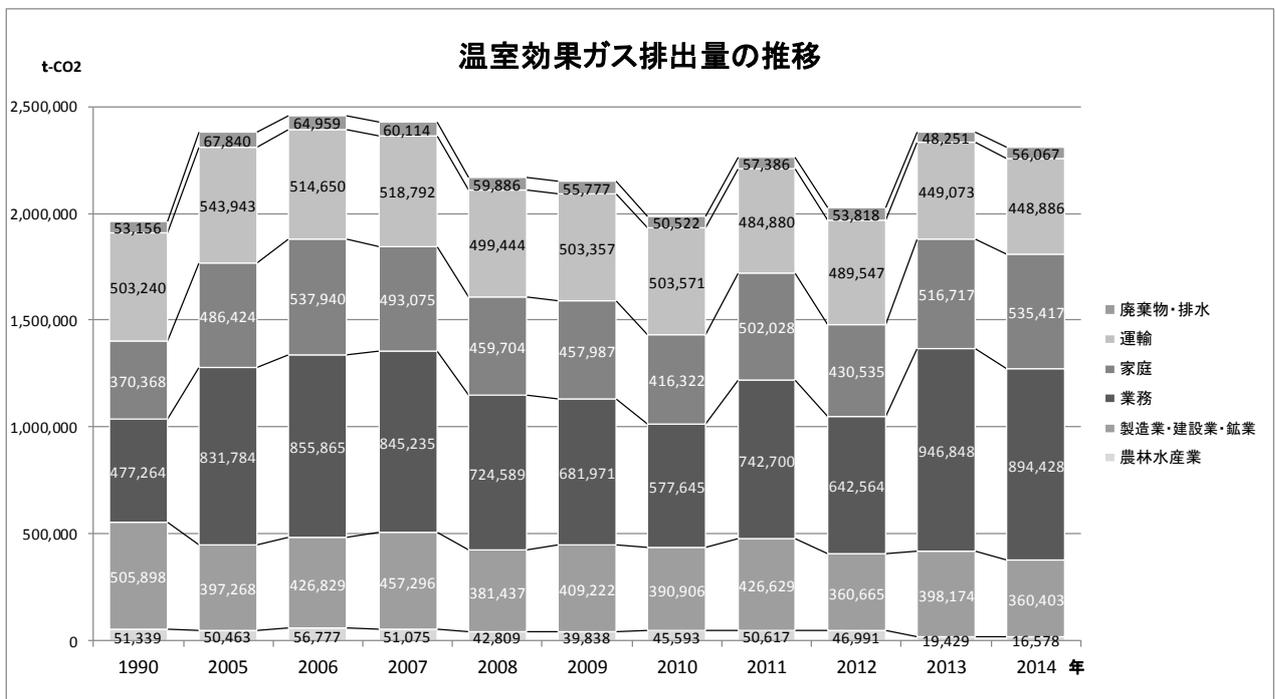
〒380-8512  
 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地  
 長野市環境部環境保全温暖化対策課  
 電話：224-7532 FAX：224-5108  
 E-mail：[kankyo@city.nagano.lg.jp](mailto:kankyo@city.nagano.lg.jp)

# 長野市の温室効果ガス排出量について 2014(H26)年度版

## 1 温室効果ガス排出量の現状

- ・2014(H26)年度の長野市の温室効果ガス排出量(CO<sub>2</sub>換算)は、推計231万1,778トンで、前年度と比較して2.8%、基準年度の2005(H17)年度との比較でも2.8%減少しました。
- ・前年度と比べて排出量が減少したのは、電力使用量が減少したこと、電力の排出係数\*が少し下降したことによると考えられます。【表1】
- ・排出係数の変動による影響を受けないように、係数を2005(H17)年度の数値に固定して計算しても、2014(H26)年度の排出量は前年度比で約1.2%の減少、2005(H17)年度比では約6.9%の減少となっています。【表2】

※電力の排出係数：電力1kWh当たりどれだけのCO<sub>2</sub>を排出しているかを示す数値



【表1 排出係数変動】

単位：t-CO<sub>2</sub>

1990年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1,961,265	2,377,722	2,457,019	2,425,587	2,167,869	2,148,152	1,984,559	2,264,240	2,024,120	2,378,491	2,311,778
(0.464)	(0.452)	(0.481)	(0.470)	(0.424)	(0.417)	(0.341)	(0.469)	(0.373)	(0.509)	(0.494)

( ) 内は電力の排出係数

今後も電力の排出係数は高めに推移する見込みであり、温室効果ガス削減のための更なる取組が必要です。

【表2 排出係数固定】

単位：t-CO<sub>2</sub>

1990年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1,942,383	2,377,722	2,384,274	2,379,249	2,235,595	2,231,239	2,264,079	2,222,660	2,215,977	2,241,169	2,213,648

## 2 部門別排出量

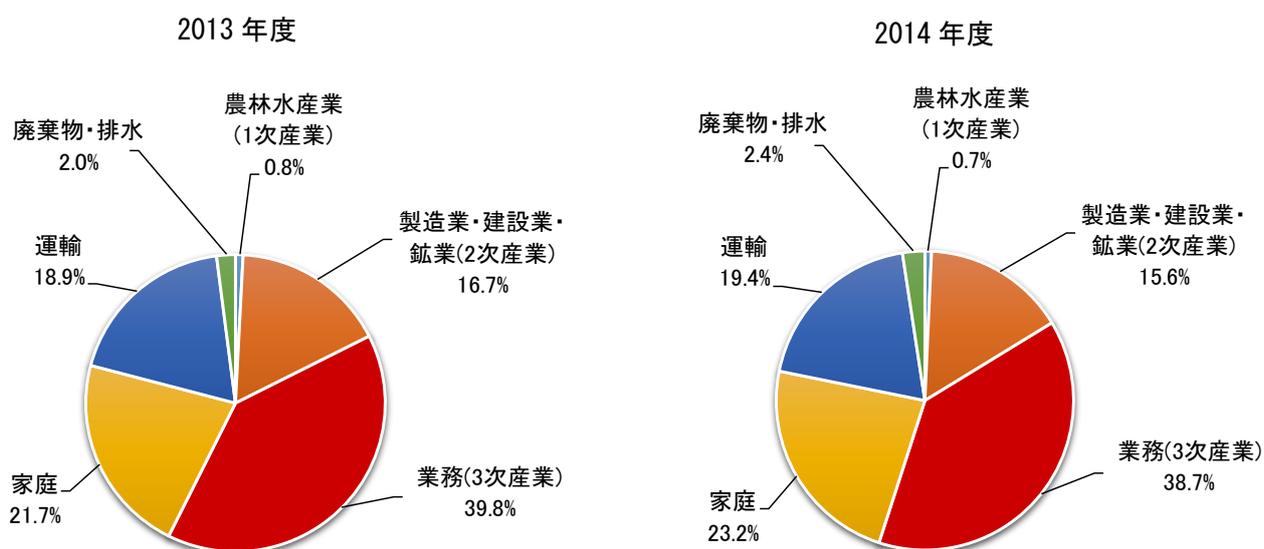
- ・全体に占める各部門の排出量の割合は、業務部門(サービス業・店舗・病院など)が約38.7%と最も多く、続いて家庭部門(23.2%)、運輸部門(19.4%)となっています。
- ・電力の排出係数が少し下降したことや、電気・ガスなどのエネルギー使用量が減少したことで、前年度よりも排出量の総量は減少しています。
- ・電力の排出係数が改善されたものの、前年度に比べて電力使用量が増加した家庭部門では、排出量が増加しています。
- ・廃棄物・排水部門からの排出量が増加していますが、一般廃棄物に含まれるプラスチックの割合が上がったためです。

### ▽部門別排出量表 (単位：t-CO<sub>2</sub>)

部門(大分類)	基準年 2005年度	2013年度	2014年度	前年度比 %	基準年度比 %
農林水産業(1次産業)	50,463	19,429	16,578	-14.68	-67.15
製造業・建設業・鉱業(2次産業)	397,268	398,174	360,403	-9.49	-9.28
業務(3次産業)	831,784	946,848	894,428	-5.54	7.53
家庭	486,424	516,717	535,417	3.62	10.07
運輸	543,943	449,073	448,886	-0.04	-17.48
廃棄物・排水	67,840	48,251	56,067	16.20	-17.35
合計	2,377,722	2,378,491	2,311,778	-2.80	-2.77

※端数処理により、合計値が合わない場合があります

### ▽全体に占める各部門の割合



### 3 家庭からの排出量と内訳

- ・家庭部門に、自家用車の使用と家庭のごみ処理に伴う排出量を加え、世帯当たりの排出量として算出すると、2014(H26)年度の世帯当たりの平均排出量は推計4.79トンとなりました。
- ・前年度の4.62トンから0.17トン増加しています。特に電力、灯油の使用が増加していることが原因です。
- ・一世帯当たりで排出するCO<sub>2</sub>の構成割合をみると、電力が45.8%と最も多く、続いて自動車、灯油、ガス、廃棄物となっています。

#### ▽一世帯当たりの年間平均排出量の内訳

部門 分類	分野別	2013年度			2014年度		
		年間消費量換算	t-CO <sub>2</sub>	割合	年間消費量換算	t-CO <sub>2</sub>	割合
家庭	電力	約 4,100kwh	約 2.09	45.2%	約 4,438kwh	約 2.19	45.8%
	灯油	約 265 ℓ	約 0.66	14.3%	約 297 ℓ	約 0.74	15.4%
	ガス	約 273 m <sup>3</sup>	約 0.59	12.7%	約 231 m <sup>3</sup>	約 0.50	10.4%
運輸	自動車	約 485 ℓ	約 1.13	24.3%	約 507 ℓ	約 1.18	24.6%
廃棄物	廃棄物		約 0.16	3.5%		約 0.18	3.8%
計			4.62			4.79	

※自動車の年間消費量はガソリン換算

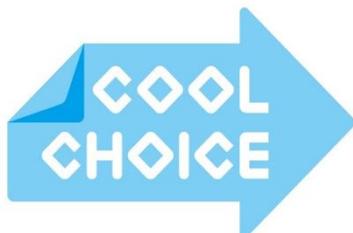
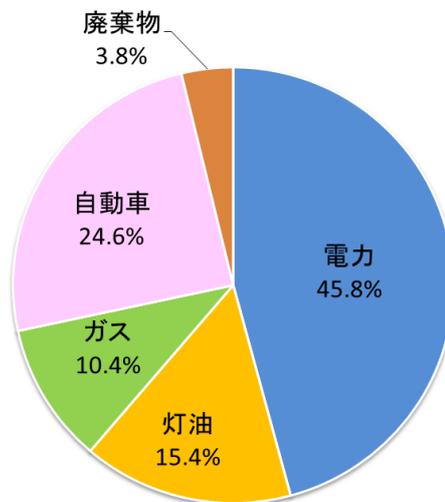
※世帯数 156,130世帯 2014(H26).4.1住民基本台帳から

※参考：世帯当たり平均人員2.5人（2015(H27)年国勢調査から）

#### 長野市一世帯の年間平均CO<sub>2</sub>排出量

- ◆2014(H26)年度の平均排出量は4.79t-CO<sub>2</sub>  
(2013(H25)年度は4.62t-CO<sub>2</sub>)

なお、家庭からの排出量を一人当たりで見ると  
2014(H26)年度の平均排出量は1.98t-CO<sub>2</sub>  
(2013(H25)年度は1.89t-CO<sub>2</sub>) となります。



未来のために、いま選ぼう。

長野市はCOOL CHOICEに賛同し、地球温暖化対策を強化することを宣言しました。

#### ご存知ですか？ クールチョイス COOL CHOICE

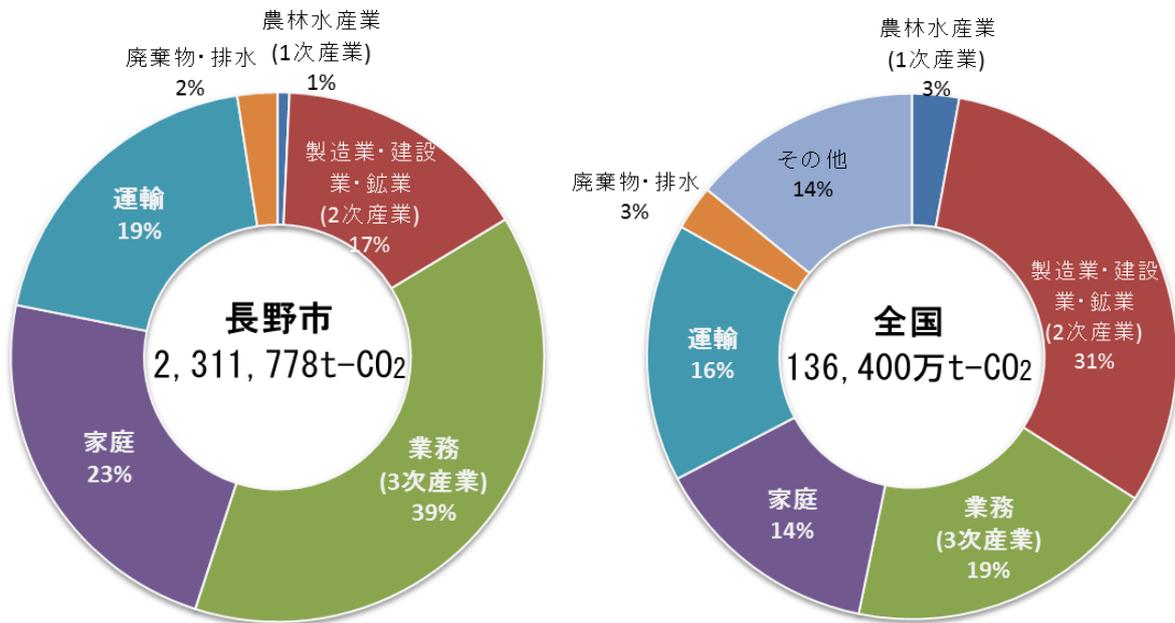
「COOL CHOICE」(=賢い選択)とは、省エネ・CO<sub>2</sub>排出量が少ない(低炭素な)「製品」「サービス」「行動」などを積極的に選択する取組のことです。

- 例えば
- ・省エネ性能が高い家電製品を選ぶ
  - ・公共交通機関を利用する
  - ・買い物時はエコバッグを使用する など

みなさんも、家庭や職場のあらゆる場面で、低炭素な選択を実行していきましょう。

【参考】長野市と全国の温室効果ガス排出量の比較

- 下の円グラフから、長野市は全国と比較して、製造業・建設業・鉱業部門の割合が低く、業務部門、家庭部門の割合が高いことがわかります。



△長野市と全国の温室効果ガス排出量と部門別割合 (2014 (H26) 年度)

▽一人当たりの年間排出量の比較

長野市: 6.12t-CO2/人      国: 10.72t-CO2/人

長野市外から供給される工業製品等の生産に伴う排出量は、製造された地域(市外)の排出量

- 私たちは、長野市外で生産された多くの工業製品などを使っており、その恩恵を受けています。一方で、これらの生産に伴う排出量は、生産された地域（長野市外）の排出量となります。
- このことを踏まえ、一人当たりの排出量は全国に比べて少ないものの、一層の排出削減に取り組む必要があります。
- 本市においては、特に、排出割合が比較的高い業務部門、家庭部門での対策が重要となります。

〒380-8512  
 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地  
 長野市環境部環境保全温暖化対策課  
 電話：224-7532 FAX：224-5108  
 E-mail：[kankyo@city.nagano.lg.jp](mailto:kankyo@city.nagano.lg.jp)